

日本結核病学会東海支部学会

—— 第122回総会演説抄録 ——

平成25年11月16・17日 於 アクトシティ浜松コンgresセンター（浜松市）

（第104回日本呼吸器学会東海地方学会
第7回日本サルコイドーシス/肉芽腫
性疾患学会中部支部会 と合同開催）

会 長 須 田 隆 文（浜松医科大学第二内科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 膜性増殖性糸球体腎炎の加療中、繰り返す胸部陰影を認め、最終的に肺クリプトコッカス症と診断した1例 浅野俊明・鈴木香菜恵・林 信行・日比野佳孝・山田祥之（JA愛知厚生連江南厚生病呼吸器内）古田慎司（同腎臓内）福山隆一（同病理診断）

当院腎臓内科で、膜性増殖性糸球体腎炎のためプレドニン10mgを処方されている76歳男性。微熱・経口摂取低下・背部痛を主訴に受診。左上葉に空洞を伴う浸潤影を認めたため、当科に紹介された。経気管支肺生検では、組織壊死を伴う多数の好中球浸潤像を指摘。肺炎として加療したところ、陰影は改善した。しかし、紹介5カ月後の胸部CTでは新たに右下葉の多発結節影が出現。経気管支肺生検を再検すると、グロコット染色で組織内に類円形構造を認めた。血中クリプトコッカス抗原も陽性であり、肺クリプトコッカス症と診断した。文献的考察を交えて報告する。

2. 左総頸動脈瘤、脳結核腫を合併した肺結核の1例 柘植彩花・沓名健雄・清水美帆・高橋一臣・竹内知子・石原明典・岩木 舞・若山尚士・小笠原智彦・鈴木雅之（名古屋第二赤十字病呼吸器内）内田健一郎・田嶋一喜（同心臓血管外）

症例は76歳男性。2011年12月、右下肢の脱力感あり当院救急外来を受診。頭部MRにて左大脳に多発結節を認め、体幹部CTで左総頸動脈瘤および左肺上区に気道散布陰影を認めた。胃液検査より肺結核と診断し抗結核療法を開始したところ、肺病変だけでなく左大脳病変も縮小し、脳結核腫と臨床診断した。その後左総頸動脈瘤の拡大に伴う嘔声が出現したため、2012年7月に左総頸動脈瘤修復術を施行した。その病理所見から左総頸動脈瘤も結核性仮性動脈瘤と診断確定した。結核性動脈瘤は稀であり、若干の文献的考察を加えて報告する。